

## 農場HACCP導入に向けた家保の取り組み

湘南家畜保健衛生所

森村裕之 矢島真紀子

田村みず穂 駒井圭

福岡静男

### はじめに

食の安全・安心に対する国民の関心が高まる中で、フードチェーンの上流に位置する畜産農場においても安全性における責務を果たすことが求められている。このような中、平成21年8月に農林水産省から「畜産農場における飼養衛生管理取り組み認証基準（農場HACCP認証基準）」が公表され、それに基づき、平成24年4月以降全国で次々に農場HACCP認証農場が生まれており、現在、その数は72農場となっている（平成27年12月25日現在）。農林水産省では平成30年度までに農場HACCPに取り組む農場を約10,000戸、認証農場を約500戸に増やすことを政策目標に掲げている（農場生産衛生強化推進事業）。今回は神奈川県での農場HACCPを普及・推進するための取り組み、および認証取得農場における取り組み開始から認証取得にいたるまでの家畜保健衛生所（以下、家保）の関わりについて報告するとともに、この取り組みから普及・推進のための課題について考察する。

### 神奈川県の取り組み

神奈川県内には認証農場が4戸あり（平成27年12月25日現在）、そのうち当所管内では養豚1戸、酪農1戸が認証を取得している（表1）。神奈川県では全国的な推進制度、認証制度のほか、

表1 神奈川県内認証農場

畜種	認証取得時期	所管家保
養豚	平成25年 6月	県央
養豚（事例1）	平成26年10月	湘南
酪農	平成27年 8月	県央
酪農（事例2）	平成27年11月	湘南

か、農場HACCPの取り組みを推進するため「神奈川県農場HACCP計画認定制度」を平成24年度から県単独事業（農場HACCP認証制度普及推進事業）として実施している。この認定制度は農場HACCP認証基準に基づき作成した「農場HACCP計画」を神奈川県農場HACCP計画認

定協議会（会長：神奈川県環境農政局農政部畜産課長）が審査し、認定するものである。全国的な認証制度との主な違いは認証制度は継続的改善を求めているが、認定制度はその入り口の認証基準を満たす書類の整備までで、推進農場と認証農場の中間的なポジションである。認定農場は5農場あり（平成28年1月末現在）、前述した認証農場4農場は全て認定農場となっており、それ以外に1養豚農場が認定されている。

神奈川県では農場HACCP推進のため 公益社団法人 中央畜産会（以下、中畜）主催の研修会に県職員を受講させ、指導員資格29名、審査員資格21名の職員が家保を中心に配属されている（平成27年12月末現在）。これらが県職員以外の県畜産会、管理獣医師、JA等とともに農場へのサポート体制を整えている。

### 認証農場における認証取得までの家保の取り組み

#### 1 事例1（養豚）

##### （1）農場概要

当該農場は農事組合法人の一貫経営農場で、従業員数9名である。総飼養頭数約4,400頭で神奈川県内では大規模な農場である。農場HACCPの導入動機は高品質豚肉生産、対外的な安全性のアピールなどである。

##### （2）取り組みの経過

###### ア 導入初期の取り組み

平成24年7月、県内銘柄豚生産グループ事務局であるJAの指導により農場HACCP認証農場を目指し、「農場HACCP構築会議」を開催、取り組みを開始した。この農場HACCP構築会議の参加者は農場、管理獣医師、JA、神奈川県畜産技術センターおよび家保で、これ以降、約1ヶ月間隔で開催された。この初回会議において中畜が指定する農場HACCP推進農場を目指すこととなった。

###### イ 推進農場指定まで

システムの構築については管理獣医師が中心となって指導を行い、必要とされる文書は構築会議内で意見交換し、作成された。また、家保はこの中で申請時に定められている様式の飼養衛生管理基準チェックリストを用い、飼養衛生管理基準の遵守状況を現地確認等にて行った。推進農場に指定されるにはチェックリストで評価点が96点中67点を必要とされるが、この農場は82点とすでに遵守状況は良好であったため、申請書類を整備し、中畜に申請したところ、

平成25年3月に推進農場に指定された。また、同月、県認定農場にも認定された。

ウ 認証取得まで

推進農場指定申請後も、農場HACCP構築会議は継続して開催され、家保は文書作成とともに飼養衛生管理基準遵守のさらなる改善を指導した。この農場では衛生管理区域への病原体持込防止対策として車両消毒などは行っていたが、農場指定の来場者用長靴の履き替え場所が飼養衛生管理区域内で行われており、そこは従業員の作業動線と重なっていた。そこで貨物用コンテナを農場入り口に設置し、来場者は必ずコンテナ内で靴を履き替えるようにした(写真1)。加えて、来場者が記入しなければならない記録(来場者記録、海外渡航記録、他の畜産施設訪問記録)もコンテナ内に常備し、来場者の記入漏れを防ぐようにした。また、従前から家畜の健康観察は行っていたのだが、新たに健康観察チェック表(写真2)を各豚舎に設け、ステージ毎の健康観察を記録するようにした。



写真1 来場者用靴履き替え場

日付	来場者名	性別	年齢	職業	健康状態	検査結果	検査項目	検査結果	検査項目	検査結果	
平成25年12月4日	JA	男	30	会社員	良好	体温	37.5℃	呼吸	正常	その他	なし
平成25年12月5日	JA	男	25	会社員	良好	体温	37.5℃	呼吸	正常	その他	なし
平成25年12月6日	JA	男	25	会社員	良好	体温	37.5℃	呼吸	正常	その他	なし
平成25年12月7日	JA	男	40	会社員	良好	体温	37.5℃	呼吸	正常	その他	なし

写真2 健康観察チェック表

平成25年7月には初の内部検証を実施。家保は飼養衛生管理基準の検証を担当した。その後、内部検証は年2回のペースで実施、平成26年7月に実施した模擬審査を含めその都度、課題を見直した。また、この農場では衛生管理目標に5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)活動を掲げ実行したところ、農場環境が改善された(写真3)。これらの取り組みの結果、平成26年10月に認証取得に至った。



写真3 5S活動

エ システム導入の効果

#### (ア) 従業員の意識の向上

5 S活動や各種記録付けを行うことにより、従業員に安全な豚を生産しているという意識が根付くようになった。

#### (イ) 従業員間の情報共有

情報連絡表や各種記録などにより情報共有され、内部コミュニケーションが充実した。

#### (ウ) 疾病対策の検証

各種記録を検証することにより、農場の衛生上の問題点（事故率等）が浮かび上がり、ワクチン接種時期や消毒方法等を検証するようになった。

#### オ 今後の活動

この農場では年2回衛生管理目標の見直しを行っている。目標の中には事故率や内臓廃棄率、枝肉の上物率等を具体的に数値を掲げているのだが、なかなか達成できず、同じ数値の目標を継続している状況である。内部検証などにより、課題を検証・見直ししているが目標達成にはもう少し時間がかかるのではないかと考える。家保は飼養衛生管理を中心に農場の衛生状態を指導し、生産性の向上に寄与していきたい。

## 2 事例2（酪農）

### (1) 農場概要

飼養頭数 46 頭、従業員 3 名（経営者とその父母）の家族経営農場である。農場 HACCP の導入動機は自農場の衛生意識の向上、将来的に考えている従業員雇用に対応するための準備、自らが先頭を走ってモデル農場となり、同地域の他の農場への農場 HACCP 普及を推進したいことなどである。

### (2) 取り組みの経過

#### ア 導入初期の取り組み

平成 25 年 1 月、以前より農場 HACCP に興味を持っていた経営者が、家保へ導入への相談を持ちかけてきた。しかし、当初、家保は酪農分野での農場 HACCP の実務経験が浅かったため、関係機関と連携し、対応することとした。同年 2 月県畜産会が、6 月に管理獣医師、県畜産技術センターおよび薬品販売会社が加わり、これらの機関



写真4 HACCPチーム会議

で中畜が指定する推進農場、および認証取得を目指すこととなった。

#### イ 推進農場指定まで

農場および関係機関は月に1回程度、HACCPチーム会議（写真4）を開き、システム構築を始めた。推進農場指定に必要な文書作成は農場経営者が作成、会議で内容の精査を行った。また、家保は平成26年1月に飼養衛生管理基準の遵守状況を現地確認等にて行い、80点満点中70点と良好だった。その後、中畜に申請書類を提出し、平成26年3月推進農場に指定された。

#### ウ 認証取得まで

推進農場指定後も、HACCPチーム会議は月に1回程度開催され、文書の精査、情報・意識の共有を図った。文書はHACCPチーム責任者（農場経営者）が草案を作成し、HACCPチーム会議前に家保が助言・添削を行った後、HACCPチーム会議に諮るようにした。家保は文書作成の中でチーム責任者に農場HACCPシステムの前提となる家畜伝染病予防法や、ポジティブリスト制度など各種法令・規則等の遵守について特に丁寧に説明した。HACCPチーム会議実施に並行して、農場HACCPが求めている従業員に対しての教育・訓練を定期的に行い、各機関が講師となってテーマを策定し、従業員向けの講義を行った。平成26年12月には必要文書がおおむねできあがったため、県農場HACCP認定農場に申請を行い、翌年3月に認定された。平成27年1月に初めて内部検証を実施、同年4月に県畜産会と家保が、5月には中畜から審査員を招いて模擬審査を行い、システムの評価を行った。指摘された課題についてはその都度是正され、平成27年8月に認証審査（現地審査）、11月に認証取得に至った。

#### エ システム導入の効果

##### (ア) 作業の効率化

導入牛の導入動線、作業実態に合った踏み込み消毒槽設置場所の変更や消石灰帯の設置場所、給餌時の作業動線の見直しなどを行い毎日の作業の効率化が図られた。

##### (イ) 従業員雇用への下準備

現在家族3名で従事しているが、経営者は将来的に従業員を雇用することを考えている。そのため、各作業分析シート以外にも主要な作業については作業マニ

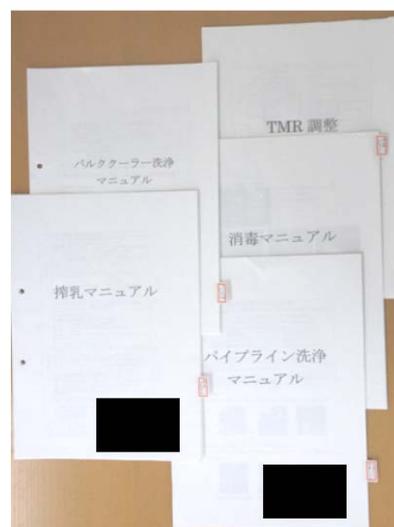


写真5 各種作業マニュアル

ュアル（写真5）を整備し、新人教育等の際に活用できる文書となった。

#### (ウ) バルク乳の体細胞数の減少

システム導入前からバルク乳の体細胞数は多くなく、良好な成績だったが、衛生意識の向上により、体細胞数は更に改善された(図1)。

#### オ 今後の活動

HACCPチーム会議は認証取得までは作成された文書のチェックが大きな作業ウェイトを占めていたが、

それが終了したため、今後はHACCPチーム会議を隔月開催とした。今後はPDCAサイクルをうまく回していくことが大切となる。その中で家保はシステムの評価、更新、従業員の教育・訓練などに取り組んでいく。

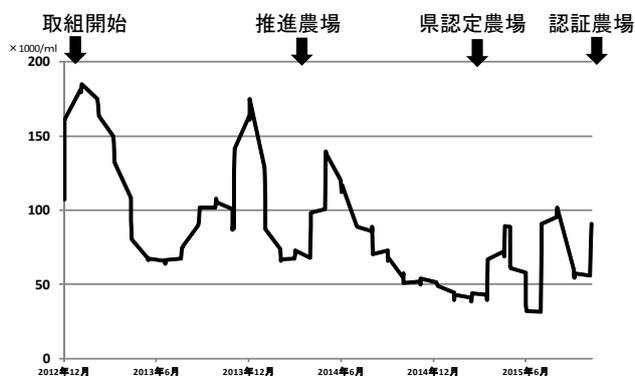


図1 バルク乳体細胞数の推移

## 導入の課題

今回の2事例については、それぞれのHACCPチーム責任者が強い決意と強力なリーダーシップにより推進していったため、認証取得することができたと考える。そしてこれら2農場は今後もPDCAサイクルを回し、システム改善を継続していくことができると容易に推測できる。しかし、仮にある農場で家保などの外部機関が農場HACCPを推進しようと考えたところで、今回のような責任者がいなければ認証取得に至るには難しいのかもしれない。農場HACCPを推進する側としては、いかに農場に本システムの長所・短所を理解・納得した上で進められるかに係っている。

農場HACCPは生産性向上と生産畜産物の安全性のアピールにはとても優れたシステムであり、県内には認証4農場以外にも興味を持っている農場もある。しかし、認証取得まで進めようという農場はなかなか出てこないのが現状である。これは以下のような問題点があると考えられた。

### 1 経済的メリットがわかりづらい

事故率が下がるなど生産性向上が図られ、実は経済的なメリットも生まれるのだが、それがシステム導入によるものなのかどうか農場にはわかりづらいのである。また、現在の制度では、生産物は差別化されることなく出荷・販売されている。生産物にわかりやすいプレミア性を設けることができれば普及も進むのかもしれない。また、認証取得審査時は審査料として数十万円、それ以外に

も審査員の旅費等が必要となる。さらに、認証取得後の中間審査および更新審査時の費用、加えて必要であれば認証マークの使用料や管理獣医師など外部専門家へ支払うコンサルタント料などを考慮すると、農場HACCP認証取得およびその維持には、特に家族経営などの小規模農場には少ない金銭的負担となる。

## 2 労力

作成すべき文書量が膨大であったり、作業記録をつけることが求められる。これらのことが猥雑と感ずる農場がある。

## 3 支援システム

農場HACCPのシステム構築を独自で行える農場は神奈川県内には無く、管理獣医師や家保など外部機関の支援が必要である。特に作成文書の精査は関連法令等から家保等行政機関が最も適していると考えられる。また、最近の認証審査は審査員が細部まで文書をチェックする傾向があり、それに対応する文書作成力がチームには求められる。支援する側の家保職員もさらなるレベルアップを必要とし、農場の信頼を得ていく必要がある。

## まとめ

平成28年2月、環太平洋パートナーシップ協定(TPP)が署名され、近い将来、畜産業界には海外から荒波がやってくる事が予想されている。それに対し農場HACCPは安全性のアピールをするには優れたシステムではあるが、今のところ一般消費者には認知度が低い。農場HACCPとともに、流通加工段階の安全性(ISO22000など)も含め積極的に情報発信していく必要がある。そうすることで、一般消費者の理解も得られていくだろう。神奈川県としても県民に安全安心な畜産物を提供するため今後とも農場HACCPの取組みを推進していく。

## 参考文献

宮島成朗：日獣会誌、65、812～815（2012）

（社）中央畜産会：畜産農場における飼養衛生管理向上の取組認証基準（農場HACCP認証基準）の理解と普及に向けて、3～9、（社）中央畜産会、（2012）

（社）中央畜産会：農場HACCP認証の取組み事例集、（社）中央畜産会、134～136（2015）

柴田淑子ほか：平成24年度神奈川県家畜衛生業績発表会集録、16～20